

令和5年度第3学期終業式 校長講話

皆さん、おはようございます。

本日ももちまして、本校は令和5年度を終えることとなります。ここに出席している生徒の皆さんにつきましては、各学年の教育課程の修了と次年度の進級を認定いたします。

これから終業式にあたりまして2つの話をします。

1つめは「春休み中に令和6年度の目標と目標達成のための行動計画を立てて、できるだけ早く実践に移してほしい」というお話です。

生徒の皆さんは年度始めに令和5年度の目標を立てたと思いますが、その目標を達成できた人も、達成できなかった人も、令和5年度を振り返りながら、次の学年の目標と目標達成のための行動計画を春休み中に立てておいてください。

目標を立てて地道に行動を積み上げることの大切さは、多くの著名人が語っていることを皆さんは知っていると思います。

元・大リーガーのイチローさんは、「小さいことを積み上げていくことが、とんでもないところへ行く、ただ一つの道」とおっしゃっています。

また、「努力する人は希望を語り、怠ける人は不満を語る」(*1)という言葉や『どうせ無理』は楽をしたいからだ」(*2)という言葉もビジネス雑誌等でよく目にします。
[*1：井上 靖 氏 (作家)、*2：植松 努 氏 (実業家)]

「どうせ無理」と思わずに高い目標を掲げ、目標達成のための行動計画を立てたなら、「毎日の小さな積み上げ」や「希望を語りながら努力する」ことを念頭に置きながら実践してほしいと思います。

2つめは、「都城農業高校を皆さんの行動で地域から大事にされ、応援される学校にしてほしい」ということです。

先日、学校評議員会という会議がありました。評議員の一人の方は「年度当初は自転車のマナーが悪いことを指摘したけれども、最近はマナーが良くなった。」とおっしゃってくださいました。

その一方で、「この学校は遅刻者が多いし、朝の登校風景をみると遅刻しそうな生徒がのんびりと学校へ向かっている。この学校の人気の要因は、規則のゆるさにあるのではないのか。」と指摘された評議員の方もいらっしゃいました。

ほとんどの生徒は登校時刻を守り、欠席も少ないということは承知していますが、市民の方がすべての生徒の行動を把握しているはずはありません。つまり、数人の生徒の行動が全校生徒の傾向に思えるのだと思います。

私は就職や進学、部活動や資格取得、地域連携活動で実績を挙げていることをアピールしていますが、一般市民の方にとっては、登下校中の態度や交通マナーを守ること、街中での行動に関心があるように思えます。

生徒の皆さん一人一人が多くの方から見られ、評価されていることを忘れないでください。評価の低い学校は大事にされないし、応援もされません。

最近のテレビのニュースや新聞等で、旅館の天井に穴を開けたり、障子を破ってふざけている大学生グループがいたことが報道されました。難関国立大学のエリート学生だから何をやっても許されると思ったのか、高校生の頃、一生懸命に受験勉強を頑張ってきたから何をやっても許されると思ったのかわかりませんが、残念ながら自分の言動のその先には何が待っているのかを想像する力は身に付けられなかったようです。

世界中に勉強したくてもできない若者が何億人もいる中で、十分な衣食住とともに十分な教育を受けて、名門大学へ進学した学生が世間をがっかりさせる行動ができるのはなぜなのか、皆さんも考えてみてください。

「私は絶対そういうことはしない」と自分自身に誓うことができれば大丈夫です。少しでも不安のある人は、常日頃の発言や行動、「いわゆる言動の先にある結果を想像する習慣」を身に付けて、一般市民の方から「都城農業高校がここであって良かった。都城農業高校の生徒たちは地域の誇り」と思われるような言動を心掛けてください。

いつも厳しい話をしていますので、令和6年度の始業式では夢のある話をしたいと思います。春休み中は事故等に気をつけ、計画的に過ごしてください。

以上で、今日の話は終わりです。

令和6年3月22日
宮崎県立都城農業高等学校
校長 山下 勉